

社会資本総合整備計画 事後評価シート

歴史的資源を活用した魅力ある  
住みよいまちづくり(第2期計画)

令和3年3月

滋賀県大津市

# 社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	歴史的資源を活用した魅力ある住みよいまちづくり（第2期計画）												
計画の期間	平成27年度～平成31（令和元）年度（5年間）								重点配分対象の該当				
交付対象	滋賀県大津市												
計画の目標	<p>大津市志賀地区、北部地区及び中部地域にかけては、豊かな自然を抱え、歴史的資源が数多く点在しているが、観光振興並びに商業振興に活用しきれおらず、地域への来訪者数も減少傾向にある。この豊かな自然と歴史的資源との共生を図りながら、市民との協働によって観光資源としての魅力を創出し、地域の活性化を図る。</p> <p>中部地域の坂本地区は、比叡山延暦寺の里坊や多くの社寺が集積し、伝統的様式の町家が残されているが、歴史的な街並み景観が失われつつあることから、歴史性を活かしたにぎわいのあるまちなみ景観の形成・保全を行う。</p> <p>都心地区は、第2期中心市街地活性化基本計画の基本的な方針に基づき、旧東海道に縁のある歴史的資源を活用した地域の活性化に取り組む。</p> <p>JR大津駅周辺地域並びにJR堅田駅周辺地域においては、主要路線の結節点において慢性的に発生している交通渋滞の解消を図り、安全・安心な住みよい環境が整備され地域住民と来訪者の交流によるまちの活力創出へ繋げていく。</p>												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,599	A	1,532	B	0	C	67	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	4.2	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H26当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (H31末)
1	市志賀地区、北部地区及び中部地域における観光客数を8,906千人／年(H26)から9,084千人／年(H31)に増加 市志賀地区(小松、木戸、和邇、小野地区)、北部地区(葛川、伊香立、真野、真野北、堅田、仰木、仰木の里、仰木の里東地区)及び中部地域(雄琴、日吉台、坂本、下阪本、唐崎、滋賀、藤尾、長等、逢坂、中央、平野地区)における1年間の観光客数を計測する。	8,906千人／年	9,012千人／年	9,084千人／年
2	市志賀地区、北部地区及び中部地域における人口を185,397人／年(H26)から189,100人／年(H31)に増加 市志賀地区(小松、木戸、和邇、小野地区)、北部地区(葛川、伊香立、真野、真野北、堅田、仰木、仰木の里、仰木の里東地区)及び中部地域(雄琴、日吉台、坂本、下阪本、唐崎、滋賀、藤尾、長等、逢坂、中央、平野地区)における人口を計測する。	185,397人／年	187,600人／年	189,100人／年

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靱化を含む	—	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	—	流域水循環計画を含む	—	地域再生計画を含む	—
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H27	H28	H29	H30	H31			
		一体的に実施することにより期待される効果 備考																	
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	大津市	直接	大津市	—	—	堅田地区都市再生整備計画事業	道路、高質空間形成施設等 45ha	大津市	■	■	■	■	■	414	1.0	—
	A10-002	都市再生	一般	大津市	直接	大津市	—	—	都心地区都市再生整備計画事業	道路、高質空間形成施設等 46ha	大津市	■	■	■	■	■	429	1.0	—
											小計						843		
道路事業	A01-003	道路	一般	大津市	直接	大津市	—	—	市道幹1009号線	道路 L=1,450m W=18m	大津市	■	■	■			48		—
											小計						48		
住宅環境整備事業	A16-004	住宅	一般	大津市	直接	大津市	—	—	坂本地区街なみ環境整備事業	小公園整備、住宅修景、道路美装化、水路の整備等	大津市	■	■	■	■	■	500		—
											小計						500		
道路事業	A01-005	街路	一般	大津市	直接	大津市	—	—	堅田駅西口地区土地区画整理事業（本堅田真野線外）	都計道路4路線、駅広、区画道路等、29.5ha	大津市	■					141		—
											小計						141		
											合計						1,532		



事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
関係各課で、数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を確認し、その結果に至った原因を分析した。また、その検証結果を踏まえて今後のまちづくりの方針を検討した。	令和2年度
	公表の方法
	市ホームページ及び都市計画課の窓口での閲覧

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>指標①： 堅田地区都市再生整備計画の、堅田千軒まちなみ整備事業や堅田駅西口広場、市道幹1012号線の整備事業などにより地域の魅力が向上するとともに、市道北2145号線の整備により地区へのアクセス性が向上したことで観光客数が増加した。また、堅田駅西口土地区画整理事業（本堅田真野線外）、市道幹1009号線及び今堅田真野線の整備・開通により交通需要の分散が実現したことで、ローズタウン及び衣川からJR堅田駅までの2ルートにおいて、自家用車を利用しての到達時間が改善された。</p> <p>都心地区都市再生整備計画事業では、旧東海道まちなみ整備や大津百町の祭ちょうちんが似合うまちなみ形成補助事業により、旧東海道やその沿道にある町家と調和したまちなみの形成を図った。また、大津駅外観修景整備事業により、琵琶湖観光や京都の玄関口として大津駅の外観グレードアップを図るとともに、大津駅前広場整備事業による国道161号からJR大津駅へのアクセスの向上や市道中3315号の整備事業による歩行空間のバリアフリー化や安全性の向上を図ったことで、地区内の回遊性が向上した。しかし、市道幹1037号線の整備事業が未了であり、公共空間を活用したオープンカフェ等の設置による賑わいの創出など観光資源として有効に活用できなかったことから、観光客数の増加にはつながっておらず、目標未達成となった。</p> <p>古くから門前町として栄えた坂本地区にふさわしい歴史的なまちなみ景観の形成及び保全を図ることで、地域住民と来訪者にとって魅力あるまちづくりが推進できた。</p> <p>指標②： 土地区画整理事業・市街地再開発事業により新たな住居が創出された。市民活動拠点間を結ぶ幹線道路の整備等により、より良好な住環境が形成された。古くから門前町として栄えた坂本地区にふさわしい歴史的なまちなみ景観の形成及び保全を図ることで、地域住民と来訪者にとって魅力あるまちづくりが推進できた。</p>
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<p>堅田地区都市再生整備計画事業において、土地区画整理事業により人口の集積を図ることで、市北部の地域拠点としての都市機能の充実に向けたまちづくりに寄与した。また、交通結節点である堅田駅西口広場は、地域の住民や近隣の大学と連携しながらデザインの検討を進めたことで、シェルターや街灯、植樹などのデザインに地元らしさや地域らしさが取り入れられたものとなっているほか、子供達がデザインしたオブジェが取り付けられており、地域住民の愛着が大きいものとなっている。</p> <p>都心地区都市再生整備計画事業において、旧東海道まちなみ整備事業やまちなみ形成補助事業による、道路の美装化や無電柱化、修景整備により、古くから港町・宿場町として栄えた大津にふさわしい歴史的なまちなみ環境の形成と維持向上を図るとともに、江戸時代から受け継がれてきた「重要無形民俗文化財」である大津祭の曳山行事の巡行路としてもふさわしい、より魅力ある景観づくりに寄与した。また、これらの事業により、地域の歴史や文化、風情あるまちなみに対する人びとの愛着や誇りなど、市民意識の醸成につながった。</p>

○特記事項（今後の方針等）

堅田地区においては、景観協定の活用による周辺地域との環境の調和とまち並みの保全に努めるとともに、歴史的風致維持向上計画において、重点区域に設定し、各種施策を展開する。また、未完了の道路整備等の推進により、慢性的な渋滞の解消を図るとともに、市北部の地域拠点として日常生活における利便性の向上や地域住民や来訪者の交流を支えていくため、幹線道路等の維持・充実に努める。都心地区においては、地区計画などの活用により、町家などの歴史的建造物やまちなみ景観の維持・保全に努めるとともに、歴史的風致維持向上計画において、重点区域に設定し、各種施策を展開する。また、未完了の幹線道路整備等の推進により、歩きやすさや移動しやすさの向上を図るとともに、公共空間を活用した事業の実施により、にぎわいを創出することで、歴史的なまちなみが残る地域における回遊性を高める。本市においては、平成29年3月に策定した大津市都市計画マスタープランにおいて、コンパクトなまちづくりを推進しており、今後も各種事業を行うことで、人口減少社会においても持続可能なまちづくりを推進する。

○目標値の達成状況

番号	指標（略称）		目標値と実績値に差が出た要因
	目標値	実績値	
1	指標①（市志賀地区、北部地区及び中部地域における観光客数）		
	最終目標値	9,084千人／年	堅田千軒まちなみ整備事業や堅田駅西口広場、市道幹1012号線の整備事業などにより地域の魅力が向上するとともに、市道北2145号線の整備により地区へのアクセス性が向上したことで観光客数が増加した。また、旧東海道まちなみ整備や大津百町の祭ちょうちんが似合うまちなみ形成補助事業により、旧東海道やその沿道にある町家と調和したまちなみの形成を図った。また、大津駅外観修景整備事業により、琵琶湖観光や京都の玄関口として大津駅の外観グレードアップを図るとともに、大津駅前広場整備事業による国道161号からJR大津駅へのアクセスの向上や市道中3315号の整備事業による歩行空間のバリアフリー化や安全性の向上を図ったことで、地区内の回遊性が向上した。
	最終実績値	10,126千人／年	
2	指標②（市志賀地区、北部地区及び中部地域における人口）		
	最終目標値	189,100人／年	都心地区都市再生整備計画の土地区画整理事業・市街地再開発事業や堅田駅西口地区土地区画整理事業により新たな住居が創出された。また、道路事業等により歩行空間のバリアフリー化や安全性の向上が図られるとともに、市民活動拠点間を結ぶ幹線道路の整備等により、より良好な住環境が形成された。しかし、定量的指標に定義した地区のうち、土地区画整理事業が行われた北部地区と中部地域の合計人口が当初現況値から増加したものの、志賀地区においては減少した。地域拠点に人口集積の傾向が見られる。
	最終実績値	186,332人／年	

(参考図面)

